

【果樹】アシタノカラダみかんジュース(株式会社えひめ飲料)の取組

【愛媛県】

みかんジュースに着目したポイント

“アシタノカラダ”は、近年、増加している非アルコール性脂肪肝や脂肪肝炎に対するβ-クリプトキサンチンの有効性や作用メカニズムを解明するため、産学官連携により研究した成果。



【地域の連携状況】

- ・農林水産省実用技術開発事業による共同研究。
- ・共同研究機関: 農研機構果樹研究所(中核機関)、農研機構食品総合研究所、金沢大学、愛媛大学、(株)えひめ飲料。

取組産地の概要

- ・うんしゅうみかんは、約400年前に中国から鹿児島県の長島に伝わった柑きつの種から偶然発生(♀紀州みかん×♂クネンボと推定されている)。
- ・甘味と酸味のバランスがよく、果皮も簡単に剥けるので、おいしさの手軽さが好まれ、日本の冬の果実として定着。
- ・収穫量(約90万トン)、国民1人あたりの年間消費量(4~5kg)は最盛期(S50年)の約1/4にまで減少。



開発条件

- ・産学官連携による研究。
- ・事業活用による短期間での取組。
- ・信頼性の高い研究成果の取得。

ブランド化

- ・商品名「POM アシタノカラダみかんジュース」。(125ml/パック)
- ・みかん約1個分のカロリー。(55kcal)
- ・みかん約3個分のβ-クリプトキサンチン(3mg)。
- ・平成25年3月通販専用商品として販売。

取組農家の拡大

- ・みかんの生産量が減少しており、原材料となる果汁用みかんは、大量入手が困難。

【実績】

- ・β-クリプトキサンチン精製法の確立。
- ・動物試験によりβ-クリプトキサンチンが脂肪肝及び脂肪肝炎に与える影響を調査。
- ・ヒト介入試験によりβ-クリプトキサンチンを含むみかんジュースを飲用し肝臓に及ぼす影響を調査。
- ・機能性表示食品として届出が受理され、平成28年1月から販売開始以降、売上げは、1.5~1.6倍に増加。

【今後の展望】

- ・肝臓の健康維持、血糖値の上昇抑制などのヘルスクレーム(機能性表示食品)の表示を検討。
- ・かんきつの新たな機能性研究と商品開発を進める。